

「 村の祭り酒 」

瓊 浦 の 窓

校長 渡川 正人

間もなく令和3年が終わりますが、年末になると毎年、「新語・流行語大賞」、「今年の漢字」などが発表され、一年間を通して話題になったことや注目を集めたことを振り返る機会になります。一年の世相を表す「今年の漢字」は、京都市の清水寺で日本漢字能力検定協会が、「金」が選ばれたことを発表しました。これは、東京オリンピック・パラリンピックにおいて大きな感動とともに多くの金メダルを獲得したことや、大谷翔平選手や将棋の藤井聡汰四冠の活躍で「金字塔」が打ち立てられたことが理由のようです。

本校においても様々な面で生徒の皆さんの頑張りと活躍があり、学校全体としては充実した2学期でした。体育祭に代わるブロック別演技発表会、瓊浦祭については、魅力溢れる、そして活気に満ちた立派なものでした。3年生の進学、就職に向けての準備、頑張りと、集中力も見事でした。まだすべての結果が出たわけではありませんが、進学、就職とも大変充実した進路状況となっています。

体育部の活躍は例年素晴らしいものですが、文化部においても、県の大会において、吹奏楽部、和太鼓、エイサーがいずれも金賞を受賞、そしてその中でも和太鼓が来年夏の全国総文祭の出場権を獲得するという快挙も成し遂げました。

さて、2学期終業式では、「村の祭り酒」という民話を題材にして訓辞を述べました。この話は、サッカー元日本代表監督の岡田武史さんが、2010年のW杯南アフリカ大会に臨むにあたり、選手に語った話だそうです。

ある村では、毎年実りの秋を迎えると盛大に収穫祭を祝うのが伝統でした。そんなこの村の祭りには古くから伝承される「儀式」がありました。それは、大きな樽酒を大きな小槌で一斉に割ってみんなで盛大な乾杯をして祭りの口火を切ることでした。しかし、ある年の祭りには深刻な問題が起こっていました。それは農作物の不作のため、盛大に行う乾杯の「儀式」に使う酒樽を買うお金がないということでした。村人たちは悩みましたが、ある村人が「みんなの家にあるお酒を一人一杯分ずつ持ち寄ればいい」と提案し、そうすることになりました。いよいよ祭りの日がやってきました。村人たちが持ち寄ったお酒が入った酒樽で、見事な鏡割りが行われ、村の長老の音頭で乾杯をしました。集まった村人が一口飲み終わった後、会場は静まり返りました。そして皆が不思議そうな様子で顔を見合わせました。樽の中は酒ではなく、酒が一滴も入っていない水でした。村人たちがお互いの顔を見つめ合うところで話は終わります。「村の祭り酒」という民話です。

この民話は極めて単純な筋ですが、大変奥深い教訓を秘めていると思います。「自分一人くらいは」という自分勝手な考えではなく、生徒一人一人が瓊浦高校の生徒として、日本人として、そして人間としてどんな行動をとるべきかを常々しっかりと考えて欲しいと願っています。

第10回 ご当地！絶品うまいもん甲子園決勝大会(東京)

情報ビジネス科が商品開発の授業の一環として取り組む、地域特産品を使用したアイディア料理コンテスト「ご当地！絶品うまいもん甲子園」。今年度、九州エリア選抜大会で優秀賞を受賞した、情報ビジネス科3年A組の浦川愛加さん、西本琴美さん、本山優衣さんの3名が、九州代表として11月27日(土)東京で開催された全国決勝大会に出場しました。料理名は「彩(いろどり)フラワー巻き巻き」。県産野菜のPRと美しい花のデザインを軸に開発を展開。素材の一部には、校内で作った畑で育てた野菜も活用し、食への感謝や地域活性化への思いを込めて活動してきました。大会では「サカタのタネ」賞、「キューピー賞」の二つの企業特別賞を受賞。今後はS東美、Sマートでの商品化が決定しています。試行錯誤し、何度も繰り返した試作や、生産者、販売者の方々等への訪問学習を通じ、人との出会いや失敗を恐れず挑戦する気持ちの大切さ等、将来に繋がる貴重な体験学習となりました。情報ビジネス科の更なる活性化の契機となれと思います。



人権教育

12月1日(水)に、人権教育が行われました。1年生はネットを通じた人権問題、2年生は障害者の人権といじめ、3年生は家庭内人権について、それぞれ啓発DVDを視聴して学習しました。どれもこれからの社会で知っておかなければならないものです。各学年の集会場所でDVD上映後は教室に戻って感想文を記入しました。それを見ると、どの生徒も深い学びができたように思えます。しかしながら、「理解した」で終わってはいけません。学んだことを実践で生かすことができるかが重要になってきます。家族を、友達を、地域の方々を思いやることのできる瓊浦生になってくれることを願っています。



〈感想文〉

1年生：インターネットと人権

自分もインターネットを使っているから、気を付けようと思いました。SNSは、自分の情報が知らない人にまで広がることもあるから、その怖さを再確認できました。個人情報の特定、つきまといなど嫌なことがあるので、ネット上に誰かとの写真を掲載する時は許可をもらったり、特定されるような情報を隠す工夫をするなど、一旦立ち止まって考えることが大切だと思いました。(情1A 錦戸さん)

2年生：障害者の人権といじめ

障害者の人でも、ある程度のところは一緒にできるし、できないことは認めてあげて、面倒くさくても受け入れるような心をもって自分たちと共存していけばいいと思います。たくさんの同級生がいる環境の中で全員と仲良くすることは難しいですが、相手がどう感じているかを理解できればいじめは起きません。クラスでいじめが起きないためにも、こうして考える時間が必要だと思いました。(普2A 山崎さん)

3年生：家庭の中の人権

「人は十人十色、カラフルな方が社会では面白い」という言葉に共感しました。自分の理想や考え、価値観を他人に押し付けずに、相手を理解し、良い所をちゃんと受け止めていきたいです。周りの友人にも、コンプレックスや不安はあるはずです。そういう人達を侮辱せず、存在を大切にしていきます。悩んでいる人がいたら、ありのままの人間性を受け入れて相談に乗ってあげられるような人になりたいと思いました。(普3B 佐伯さん)

機械科 工場見学

12月9日(木)に1年生、16日(木)に2年生対象の工場見学を実施しました。今年は長崎地区は久保工業(株)、長建工業(株)、長崎機器(株)、協和機電(株)の4社、中地区は有田工業(株)、(株)峯陽、ともえ精工の3社、佐世保地区は(株)大島造船所の計8社を3コースに分かれて見学しました。今回の見学は、職場の雰囲気や仕事内容などを知るよい機会となりました。職場に関する知識に加えて卒業生の先輩方からの体験談を聞くこともでき、いつも以上に生徒達は関心を持って見学していました。この工場見学を活かして、今後の進路選択に役立てて欲しいと思います。



思います。

1年生・2年生ともに、大きな事故もなく充実した体験ができました。卒業後の未来に向かって、これからますますの努力、成長が期待されます。

情報ビジネス科 インターンシップ

12月7日(火)～9日(木)の3日間、情報ビジネス科2年生がインターンシップに行ってきました。例年同様、事前の電話依頼も生徒自身で行い、29社の事業所に受け入れていただきました。慣れない業務や環境に戸惑いながらも、社会の中で働くことの意義をそれぞれ見出して、自分の持っていた職業観を新たなものとする事ができたようです。このインターンシップは3日間という短い間でしたが、来年の進路決定の際に活用できるような、たいへん貴重な体験ができました。



ハウステンボス日帰り旅行

12月14日(火)に3年生の修学旅行代替行事が実施されました。行き先は佐世保市のハウステンボス。新型コロナの感染状況や学校行事、就職や進学の試験等、様々な要素を考慮し、このタイミングでの県内日帰り旅行となりました。初めて飛行機に乗る! スキーできるかな? ミッキーの耳を着けて... 楽しみにしていたあれもこれも無くなってしまいましたが、そこはたくましく前向きな瓊浦生。この季節ならではのクリスマス仕様の風景やアトラクションを満喫していました。天候にも恵まれ、高校生活の最後に友人とのかけがえのない時間を過ごすことができました。



《1月の行事》



- 7日(金) 始業式
- 11日(火) 第4回進路模試(2年)
- 14日(金) 共通テスト出陣式(3年)
- 15日(土) 大学入学共通テスト(～16日)
- 対外実力(1、2年)
- 17日(月) 推薦入試(生徒自宅学習)
- 19日(水) 一次入試(生徒自宅学習)
- 20日(木) 判定会(生徒自宅学習)
- 21日(金) 第3回英検
- 23日(日) 全商簿記実務検定
- 25日(火) 第3回実力考査(1・2年)
- 卒業考査(3年、～27日)
- 30日(日) 全商情報処理検定
- 31日(月) 3年生登校日(テスト返却)

☆九州

●男子バドミントン部

全九州高等学校選抜バドミントン競技大会

- 男子団体 第1位
- 男子個人戦ダブルス
 - 櫻井 煌介(普2D)・南本 和哉(普2D) 第1位
 - 奥野 天斗(普2D)・縣 涼介(普2D) 第3位
- 男子個人戦シングルス
 - 櫻井 煌介 第1位
 - 奥野 天斗 第2位

☆県内

●ボクシング

第72回長崎県民体育大会 高校の部

- ピン級 榊原 士貴(普1B) 第1位
- ライトフライ級 成瀬 太陽(普1C) 第1位
- フライ級 山下 裕也(機1C) 第1位